

<土づくりの使用資材・肥料について>

使用量はkg/10a

商品名	原料	メーカー(購入先)	全N%	化成NK	全P%	化成PK	化成K%	有機率(%)	使用目的	計画				実績			
										使用量	使用時期	回数	化成窒素kg	使用量	使用時期	回数	化成窒素kg
ドリップファーム1号	硝酸肥料	タキイ種苗	10		20	20		0	生育初期	150	7~8月 毎日	60	15.0	150	7~8月 毎日	60	15.0
ドリップファーム2号	硝酸肥料	タキイ種苗	13		8	25		0	生育中後期	600	9~6月 毎日	300	78.0	105	10/24	53	13.7
フィッシュリユーブル	魚	自家醗酵液						100	食味	20kg	9~6月 毎日						
ニガリ	海水							100	ミネラル	20L	7~6月 月2						
黒糖	サトウキビ	自家醗酵液						100	ミネラル	5kg	9~6月 毎日						
カルシウム88	貝化石Ca	フロサキシード						100	ミネラル	20L	7~7月 月1						
グリーントップ	海水 Mg	馬居化成						100	ミネラル	15kg	8~7月 月2						
プロリン	ゼラチン	サンセイ	5		3	2		100	アミノ酸	20L	9~6月 毎日						
シイタケパウダー	シイタケ	自家						100	アミノ酸	10g	7~7月 週1						
ケルバック	海藻	ロイヤルインダストリー						100	アミノ酸	300cc	7~7月 2ヶ月1						
トウゲン	各種総合酵素	酵素の世界社						100	健康保全	3kg	7~7月 週1						
米酢	米酢								殺菌	5L	7~7月 週1						

【慣行農法との比較】

*化学肥料

窒素分で比較して 当地比		削減
化学肥料	窒素使用量 (kg/10a)	
慣行使用量		
実績使用量	28.7	

*節減対象農薬

	当地比	削減
節減対象農薬	使用回数	地域の慣行防除
土壌消毒剤		
除草剤		
殺虫剤	4	
殺菌剤		
その他薬剤		
合計	4	

病虫害の防除 使用した天然防除資材・自作資材・農薬（成長調整剤、展着剤等を含む）

使用量/10a

分類	商品名	原料/成分名	メーカー(購入先)	使用目的	計画				実績				使用回数上限			
					希釈倍率	使用量	使用時期	回数	カウント	希釈倍率	使用量	使用時期	回数	カウント	商品	成分
殺虫	アルバリン粒剤	ジノテフラン	アグロカネショウ	アブラムシ類・コナジラミ類		1g/株	定植前	1	1		1g/株	8/30	1	1	1	5
殺虫	アフファーム乳剤	エマメクチン安息香酸	シンジエンタジャパン	マメハモグリハエ・オオタバコガ・トマトザビダニ	2000倍	100~300L	夏	1	1	2000倍	300L	9/11	1	1	5	5
殺虫	ノーモルト乳剤	テフルベンズロン	日本農薬	ハスモンヨトウ・コナジラミ類	2000倍	100~300L	秋春	1	1	2000倍	250L	9/26	1	1	2	2
殺虫	ベネビアOD	シアントラニプロール	乳和ベネビアOD	ハモグリハエ類、コナジラミ類、アザミウマ類、アブラムシ	2000倍	100~300L	秋春	1	1	2000倍	500L	10/4	1	1	3	4

備考:

独自の栽培方法であり、一般の栽培には当てはまりません。
 肥料に関して：10aの成分計算は一般とは大きく異なります。
 農薬に関して：病虫害の発生があった場合の登録農薬です。このため、使用しない場合もあります。
 IPM(総合的防除)にて管理し、病虫害を侵入発生させない環境にて栽培しています。

実績は 2022/10/24現在。28.7kg、4回

栽培期間通して、化成肥料の化成窒素量 93kg、
 農薬の計画回数 50回

	計画(作業、施肥、防除など)	実績(作業)
1月	収穫期	
2月	収穫期	
3月	収穫期	
4月	収穫期	
5月	収穫期	
6月	収穫期	
7月	耕起・定植	耕起・定植
8月	生育開花始まり	生育開花始まり
9月	生育開花	生育開花
10月	収穫期	
11月	収穫期	
12月	収穫期	

播種開始:	令和4年7月15日
終了:	
定植開始:	令和4年8月31日
終了:	
収穫開始:	令和4年10月17日
終了:	令和5年6月30日